



会長のブログ

現在のIRPA体制になって初めての理事会を開催できたことは大変重要な出来事となりました。2016から2020年の全体的な戦略と優先事項を見直しました。ここでは繰り返しません、総務理事から会報後半でこの重要な議論についての総括がありますので、そちらをご覧ください。

いくつかの重要な作業計画に良い進展が見られました。ウェブサイト[www.irpa.net]で、放射線防護専門家認定ガイダンスを発刊しました。放射線防護専門家個人の技能を正式に認めることが急速に求められており、それに見合うために加盟学会が規制者や政府と共に働くことを助けるものです。

眼の水晶体に関するタスクグループがまもなく第二次報告書を発刊します。改訂された線量限度に対する専門家の対応をまとめており、主要な課題を概説し、勧告も行っています。さらに、眼の線量の計測と防護器具の使用に関するIRPAガイダンスも発刊する予定です。

IRPAにコンサルテーションが組み込まれていることをご存知でしょう。これは世界中のIRPA加盟学会からのインプットを求めているものです。防護体系がその目的に合っていて、信頼の置けるものであって、放射線によって影響を受けるすべての人に示されて理解されていることを確かにするために何を歩むべきか、その実践者の見解を決定するために行っているのです。

これはそれ自身にとっても、また、IRPAが”放射線防護専門家の国際的な声”として本当に役割を果たすためにも、不可欠なものです。多くの加盟学会が見解を送ってくれました。それらは、現在の第二段階のコンサルテーション文書に取り入れられおり、すべての加盟学会が貢献できる機会を提供しています。このような実践が重要であると判断し、皆様からのインプットの提出期限を2017年1月31日から**3月31日**に延長いたしました。加盟学会はこの期限に従って対応し、皆様もそのインプットに貢献するようにお願いいたします。

会長はこの三ヶ月間多忙でした。ドイツ/スイス(FS)とオーストリアの学会の50周年記念式典に参加できたことは光栄でした。FSが主催した欧州会長会議もとても有益でした。ECのArticle 31 専門家会議やIAEAのRASSC会議(ウェブサイトの報告を参照)、ICRPのリエゾン年會にも参加いたしました。これらすべての会議からの主要なメッセージを放射線防護のサイエンスとプラクティスの両方における発展についての定期的なアップデートにまとめたいと思います。

最後に、個人の発言として、光栄なことに、OBE (Officer of the Order of the **British Empire**) の称号をバッキンガム宮殿にてウェールズ公チャールズ皇太子から得ることが出来ました。この章は原子力安全と放射線防護に与えられたものであったため、チャールズ皇太子が何を仰られるのか、大変興味をそそられていました。実際には、皇太子には必要な情報が事前に与えられており(予想通りに)、イラク戦争中に損傷を受けた原子力施設の廃止措置における挑戦や、IAEAを通じて私がこれまで関わってきたプロジェクトについて簡潔に議論いたしました。家族にとって本当に素晴らしく、忘れることの出来ない一日となりました。

ロジャー コーツ, IRPA会長, 2016年11月30日

この“IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

IRPA出版委員会

委員長: Christopher Clement • 副委員長: Bernard LeGuen • 会報編集: Chunsheng Li & Ali Shoushtarian • 加盟学会リエゾン: Adelene Gaw • ウェブサイト及びソーシャルメディア管理運営: Andy Karam, Chris Malcolmson & Sven Nagels • 予稿集アドバイザー: Haruyuki Ogino • メディア校閲者: Takatoshi Hattori, Young-Khi Lim & Sven Nagels



第70回IRPA理事会概要報告

副会長のEduardo Gallego氏が主催者となり、第70回IRPA理事会がスペインのマドリードで2016年11月10日(木)から12日(土)にかけて開催されました。ロジャー・コーツ新会長が率いる新しいIRPA体制のもとでの初めての理事会でした。

初日は、IRPAの次期及び2016年から2020年にかけての戦略についてブレインストーミングを行いました。その結果は、4つの戦略的な優先事項の定義でした:

他の国際機関や専門家集団との関与を通じ、放射線防護専門家の国際的な声としての私たちの役割を促進すること;

良好事例及び専門性の高水準を発展させ、強化し、共有することで、加盟学会の要求をサポートすること;

放射線防護専門家の教育と訓練をサポートすること;

IRPA運営と加盟学会との接点を強化すること。

これらの戦略的な優先事項の中では、私たちが放射線防護専門家の国際的な声を届ける責任を有しているICRPとIAEAとの接点に特に焦点を当てることになるでしょう。放射線とリスクの公衆理解について言及するための努力についても強化するでしょう。そして、次世代の科学者と専門家の発展を促すための効果的な若手ネットワークを構築することも決定しました。

2016年から2020年の戦略には、加盟学会とメンバー個人に関連のある情報をより容易に提供するため、IRPAウェブサイトを全面的に改良することも含まれています。地域の代表性を強化し、IRPAと理事会の全体的な運営を改良するための提案も行うでしょう。2018年の地域会合ではそれに先立って意見が交換される予定です。

医療分野との接点を強化することも決定しました。総務理事がこの目的のためのフォーカスグループの先導者に任命されました。IOMPやWHO/PAHO、ISRRTとの連携を図る予定です。このフォーカスグループには、理事会からAna-Maria Bomben氏と Marie-Claire Cantone氏が参加し、またHPSのStephen King氏やアフリカ人のメンバーが含まれます。

2020年にソウルで開催されるIRPA15国際会議のプログラム委員会(ICPC)の委員長をDon Cool氏が続けることができなくなったことを理事会としては残念に思います。しかしながら、Donの後任としてWolfgang Weiss氏を承認したことを嬉しく思います。高く認められた放射線防護の専門家であり、この提案は理事会の全会一致で支持されました。

ベルナルド ル グエン、IRPA総務理事、2016年、11月30日



ICRP専門委員会構成の見直しと次期候補者の公募

新しいICRP専門委員会

国際放射線防護委員会 (ICRP) は、次期4年間の専門委員会の構成を見直すことを最近発表しました。[11月23日のニュースリリース](#)で、ICRPは、放射線防護は”人と環境の両方についての防護の適切な考慮を含めるべきである”と述べました。統合アプローチを確かなものとするために、ICRPは”各専門委員会の権限に、人と環境の防護に関連した側面を含める”でしょう。その結果として、現在の第5委員会での環境の放射線防護についての専門性が他の専門委員会に分配され、4つの専門委員会となるでしょう。さらに、医療の放射線防護についての第3委員会の新しい権限では、獣医学について初めて言及されています。

2017年7月1日から有効となる、専門委員会の見直された権限は下記のとおりです。

第1委員会: 放射線影響

第1委員会は、細胞より小さいレベルから人の集団、そして生態系に至るまでの放射線活動の影響を考慮します。これには、がんの誘発、遺伝的及び他の疾患、組織/臓器機能の低下と発達障害も含まれます。そして、人と環境の防護に与える影響について評価します。

第2委員会: 放射線被ばくからの線量

第2委員会は、内部及び外部被ばくの評価に用いるための線量測定手法を開発します。これには、人と環境の防護に用いるための、参照生物動力学及び線量測定モデルや参照データ、線量係数も含まれます。

第3委員会: 医療における放射線防護

第3委員会は、医療診断や治療、生物医学研究において電離放射線が使用される場合の、人及び生まれる前の子供の防護について、獣医学における防護と同様に、言及します。

第4委員会: 委員会勧告の適用

第4委員会は、すべての被ばく状況について統合された方法で人と環境を防護するための委員会勧告の適用に関する助言を提供します。

専門委員会委員の公募

12月、ICRPは、2017年7月1日から2021年6月30日までの四年間のこれらの専門委員会委員の公募について、[発表](#)しました。

ICRPが専門委員会委員の公募を実施するのはこれで二度目です。初めて実施されたのは四年前で、現在の専門委員会委員が選ばれました。約65名の定員に対して、約200名もの応募がありました。これらの定員の約半数は、新しい専門委員会委員によって充足されました。

その発表によれば、”委員は、30余りの国、そして放射線防護に関連するすべての専門分野から選ばれる。認められた力量と経験に基づいて選ばれるもので、独立した専門家としてICRPに加わるボランティアである”とされています。

ICRPは2017年2月28日まで応募を受け付けています。そして、委員に選ばれた人には2017年第二四半期中に通知される予定です。

詳細は、www.icrp.org をご覧ください。



マドリードでのIRPA EC-会議2016

マドリードのIRPA EC-会議期間中に、若手研究者のネットワーク(YGN)の仕事や最近の話題、今後の目標についてプレゼンさせていただきました。

2016年夏に、我々は、各国学会の若手研究者の活動状況を把握するために、アンケートを実施しました。回答が少なかったのですが、数カ国で若手研究者のプログラムがうまく機能していることが確認できたことはひとつの成果でした。一般に、大規模な学会では地理的な理由で会議を頻繁に開催することはできないので、ソーシャルメディアを活用して大いにメリットを得ています。一方小規模な学会は、若手研究者にアピールするために、より多くの活動を実施しなければなりません。

ECメンバーは、各国の学会の意向を汲んで、我々の取り組みを推し進めるとともに、若手研究者や専門家からなる地域グループをより多く設立するための活動に支援の手を差し伸べて下さいました。ECメンバーからはまた、若手研究者同士が互いに連携するため特別なウェブサイトをつくるというアイデアにも賛同いただき、IRPAドメインとそのウェブサイトをつなぐことも考えていただいています。更に若手専門家のための、IRPA大会への参加費用の割引奨励案とともに、良好事例の共有と合わせて、研修生や研究出向制度の促進についてもご提案いただきました。

会議参加者らは、次の目標のひとつは、若手研究者に対してIRPA会議に参加して、他の参加者と知り合いになり、最初のスピーチを提供し、同じ分野に関心を持つ他の国の仲間を見つけるよう奨励することであるという点で意見が一致した。

そのうえで、我々は全ての協会メンバーに、若手研究者の支援の継続と、互いの経験について情報交換していただくため、我々のメールアドレス(ygn@irpa.net)への連絡を切にお願いしたいと思っています。



Christoph Stettner, chairman of the YGN, Seibersdorf Laboratories, Austria



Bo Lindell氏のご逝去



ボー・リンデル氏は、2016年11月10日ストックホルム(スウェーデン)にて、94才で安らかに永眠しました。

ボー氏は、放射線防護の巨人でした。彼は、1965年から1982年にかけて、スウェーデン放射線安全局、Strålsäkerhetsmyndighetenの前身であるSSIの局長を務め、1965-1988の間放射線影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)のメンバーでした。

彼は、1957-1962年の間、ICRP科学秘書官(第5代、初のスウェーデン人)を務めました。彼は1962年以降は主委員会メンバーでした。その間、彼は第4委員会(1962-1965)のメンバー、第3委員会(1965-1977)の議長、ロルフ・シーベルトとエリック・ポーシン卿の下でICRP副委員長(1969-1977)そしてそれから第8代ICRP委員長(1977-1985)でした。ICRP会長を退職されると同時に、彼は主委員会の終身名誉会員(ICRPへの特別な貢献に感謝して名誉として与えられる称号)に任命されました。

ICRPでのそのように長く、傑出した役割をになった人はほとんどいませんでした。彼の多くの重要な貢献の中で、ICRP1977年勧告(ICRP Publ.26)の発刊では、中心的な役割を演じました。これらの勧告は、今現在まだ使われている放射線防護体系の基本的な構造を構築しました。

ボー氏はまた、国際放射線防護学会(IRPA)で、重要な役割を演じました。彼は1966年に最初のIRPA理事に当選しました。そして、1973年まで2期務めました。

彼の死を記録するため、初めて、ICRP口述歴史プロジェクトの一部として2012年5月に実施されたボー・リンデル氏のインタビュー記事の抜粋が、リリースされました。



オーストラレーシアの放射線防護学会(ARPS) アデレード(サウスオーストラリア)における2016年全国会議 (イアン・ファーネス(ARPS2016会議主催者)提出)

オーストラレーシアの放射線防護学会は、2016年9月11～14日までアデレード(サウスオーストラリア)で、第41回目の年次大会を開催しました。会議のテーマは、「認知、リスクと機会」でした。ロジャー・コーツOBE博士(IRPA会長)が開始の基調講演を行いました。技術的なシンポジウムとして実施された最初の日、高レベル廃棄物施設やオーストラリアの核燃料廃棄物の管理に関する国際的な進展に議論が費やされました。2日目の本会議では、低線量放射線被ばく影響についてフォーカスが当てられました。3日目は、科学的コミュニケーションと、規制上のコミュニケーションに係る有益な教訓とあわせて、福島事故後の地元の人々が生活を立て直す活動について、プレゼンテーションがありました。ARPSもまた、より幅広い聴衆を獲得する努力を行うため、アデレードに拠点を置く科学コミュニケーション組織であるオーストラリア王立研究所(RiAus)との協力関係を築きました。テーマや会議の構成の選択を通じて、放射線防護に係る正しい科学や、正しい行為についてその本質を、いかに認知に対する影響を及ぼすことができるか、またいかに効果的に政府や地域社会の理解及び意思決定に貢献することができるかも含めて、検討することができました。

会議は200人弱の参加者を集めることができ、国内のARPS会議としては最大の人数を記録しました。スポンサーの数も記録的で、会議は有益な成果をあげて終了しました。ARPS会議は、メンバーに彼らの研究と経験を他のメンバーと共有する最高の機会を提供するだけでなく、放射線防護において議論の重要なキーポイントを占める代表者に 約50の口頭プレゼンテーションと12枚のポスターだけでなく約14人の外国人、オーストラリアや、地元のスピーカーで構成された科学プログラムを提供しました。



IRPA会長, Roger Coates OBE博士、
フロアとの質疑。



低線量放射線の影響に関するパネルセッション:
(左から) Geraldine Thomas教授、Benjamin Blyth博士、
Kevin Prise教授



福島のエートス Ryoko Ando氏(左から2人目)と通訳のTazuko Arai氏
会議主催者Ian Furness氏(左)、Tony Hooker准教授, ARPS幹部(右)と
ともに。



IRPA予稿集アドバイザーの指名

IRPA理事会は、出版委員会に、予稿集アドバイザーという新しい役職の追加を認めました。日本保健物理学会の荻野晴之さんが、この役割を務めます。まず最初に、彼は、IRPA 14(ケーブタウン)の予稿集を出版するため、ジャック・バレンティン、IRPA 14国際会議プログラム委員会(ICPC)議長とクリストファー・クレメント(IRPA出版担当理事兼IRPA出版委員会委員長)と緊密に協力して活動することになるでしょう。長期的には、この役職の主な責務は、IRPA会議の準備と予稿集の発刊に関するIRPA会議組織委員会へのアドバイスとサポートを提供することになるでしょう。

IRPA CoPは、あなたのご支援が必要です！

IRPA出版委員会(CoP)では、この会報やウェブサイトのirpa.netニュース、twitter、フェイスブックを通して我々の18,000人のIRPAメンバーと関心のあるニュースを共有するため、連携学会からの報告を必要としています。どんなニュースソースでも、歓迎します(それをcop@irpa.netに送付ください)。我々はまた、広い関心から話題を特定するため、関連した出版物をざっと目を通す鋭いメディアレビューチームを必要としています。我々は、すべての言語について、話題を見つけるCoPメディアレビューを求めています。特にアラビア語、中国語、英語、フランス語、スペイン語とロシア語で書かれた出版物をざっと目を通すことができる人を求めています。もし、関心があるならば、CoP委員長のクリストファー・クレメントclement@irpa.netに連絡してください。

RSRP年次大会

(コンスタンチン ミル博士、RSRP会長)

ルーマニア放射線防護学会(RSRP)は2016年10月14日にブカレストで「職業被ばくと欧州委員会指令No.2013/59/EURATOM」と題して、年次大会を開催しました。全体で、モルドバ共和国からの2人の仲間も含め、84人のメンバーがこの会議に出席しました。詳細は、www.srrp.roを参照してください。

